

特別寄稿

一人ひとりの健康と安心の実現を目指す 山口大学医学部附属病院の挑戦

山口大学医学部附属病院 病院長

松 永 和 人



山口大学医学部附属病院は長い歴史と伝統を持ち、これまで国内外で活躍する多くの人材を輩出し、医学・医療の発展と人材育成に尽力して参りました。大学病院には診療、教育、研究の3つの使命があります。本院では、「一人ひとりの健康と安心の探求と実現」を理念とし、①患者さんに寄り添い、安全で良質な医療を提供する、②個性や価値観を尊重し、安心して能力を発揮できる職場環境を創る、③豊かな人間性を持ち、多様な場で活躍できる医療人を育成する、④世界に誇れる先端医療を探求しつづける、⑤持続可能な地域医療の実現に貢献する、を基本方針としています。これらの目標には全職員のパブリックコメントが反映されており、患者、職員、学生、未来、地域に向けての責任と使命が示されています（図1）。

本院は、現在、ベッド数756床、30の診療科と24の診療部門を擁し、あらゆる分野の疾患を専門的かつ総合的に診療できる県内唯一の特定機能病院です。国立大学病院で最初に設置された高度救命救急センターを中核に、本県の救急

医療体制を担うとともに、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、アレルギー疾患医療拠点病院、災害拠点病院などの拠点病院に指定されています。2018年には、AIシステム医学・医療研究教育センターを設置し、多くの診療科と人工知能AIを用いた研究開発が進められ、AI技術を活用した診療支援が始まっています。また、新たな挑戦として、さまざまな分野のプロフェッショナルが

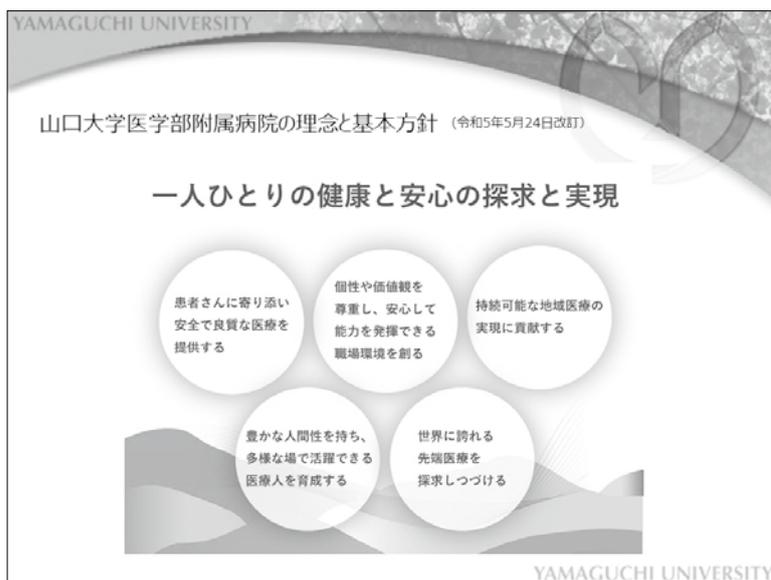


図1 理念と基本方針

連携しながら総合的な治療やケアを提供するセンター化を進め、診療機能の強化に取り組んでいます。現在、生殖医療センターのほか6つのセンターが分野連携型の診療を開始しました。大学病院は、将来を見据え、優れた医療人をバランス良く育成していくことで人々の生活と繋がりを守り、安心して暮らせる社会の実現を目指していく使命があります。山大病院は、今後の社会の変化に柔軟に対応しながら、より良い医療を目指す挑戦を続けて参ります。

2024年4月から医師の働き方改革が始まります。本来の働き方改革の目的は医療全体の労働生産性を上げ、医療の質を向上させることであり、医師一人ひとりが、より良い将来を見据えて、自分に合った働き方を選択できるようになることです(図2)。この目的を叶えていくために、業務の分担・連携やデジタル化、研究力の強化など多面的な取組みを推進していきます。

また、山大病院では、2015年から国立大学病院としては初となる2回目の病院再開発整備事業を進めています。2019年には新病棟が開院し、診療体制がさらに充実しました。2025年度までの再開発事業による病院機能の強化は、今後も持続的かつ強靱な体制で高度先進医療を提供していくための礎となります。日常診療を行いながら再開発整備を進めており、もしばらくご不便をおかけすることと存じますが、どうぞご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

山大病院の使命は、山口県の医療における“最後の砦”を務め、地域医療の「安心」と「未来」を育むことです。その実現のためには、「安心・安全でより良い医療を提供し続けること」が最も大切です。山大病院が未来に向けて歩いていくためには、皆様からの率直なご意見が必要です。

今後とも、温かいご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



図2 働き方改革の取組み (院内掲示ポスター)